

令和6年度「調査研究フォーラム」の開催について

協会では「保険者機能強化アクションプラン（第3期）」以降、戦略的保険者機能を発揮するため、協会の加入者の健康増進や医療費適正化等の取組やその取組のベースとなる調査研究で得られた知見を内外に発信することを目的として、令和6年度も下記のとおり「調査研究フォーラム」を開催する。

【名 称】 『第10回 協会けんぽ調査研究フォーラム』

【日 時】 令和6年5月30日（木） 10時～16時

【会 場】 一橋講堂（YouTubeによる当日ライブ配信と後日アーカイブ配信を実施予定）

【テーマ】 持続可能な医療保険制度を目指して

【講 演】

<午前> 1. 外部有識者を活用した委託研究（第Ⅲ期）『1年目の中間報告』

①東京大学 井出 博生 特任准教授

『協会けんぽにおける今後の保健事業等の基盤整備を目指した調査分析』

②秋田大学 野村 恭子 教授

『就労女性の性に関連する健康と労働生産性の実証研究』

③上智大学 中村 さやか 教授

『患者・供給者の行動変容と保険者機能強化による医療サービスの効率化』

④京都大学 福間 真悟 准教授

『保健事業による健康アウトカムを改善するための行動インサイト：因果探索の応用』

令和6年度「調査研究フォーラム」の開催について

<午後> 2. 協会けんぽ支部による個別発表

- ① 大阪支部 『レセプトを活用したがん検診の精密検査受診勧奨』
- ② 岡山支部 『糖尿病非該当から予備群及び治療域への10年間の追跡』
- ③ 広島支部 『メンタルヘルス対策に関する事業所実態調査』

※この他、ポスター発表6件

(北海道支部、宮城支部、秋田支部、静岡支部、京都支部、愛媛支部)

3. 外部有識者を活用した委託研究（第Ⅱ期）『2年目の中間報告』

- ① 摂南大学 小川 俊夫 教授
『生活習慣病の疾病別医療費の地域差に関する研究』
- ② 東北大学 藤井 進 准教授
『支部単位保険料率の背景にある医療費の地域差の要因に関する研究』
- ③ 岩手医科大学 丹野 高三 教授
『機械学習を用いた生活習慣病の治療行動予測モデルの構築』
- ④ 東京大学 飯塚 敏晃 教授
『予防医療が本人と家族に及ぼす効果に関する研究』
- ⑤ 京都大学 井上 浩輔 特定准教授
『メンタル疾患・生活習慣病の発症リスク削減、医療費適正化に向けた機械学習予測モデルの構築と因果推論』